

# やさしい日本語における カタカナ表記語を知る試み

近藤めぐみ

## ◆要旨

本稿では、やさしい日本語ニュースNEWS WEB EASYを素材に、一般の日本語から書き換えたやさしい日本語文で 사용되는語のうち、カタカナで表記される語に着目し、その特徴を見る。2018年のNEWS WEB EASYから抽出したカタカナ表記語は異なり語数1,302語、延べ語数8,628語で、頻度100を超える語は4語、頻度10を超える語は197語である。高頻度語は、旧日本語能力試験基準では級外語彙、単語親密度基準では親密度の高い語が多く、こうした語には外国語由来の語に限らず、動植物名などの和語も含まれる。また、書き換え前のNEWS WEBとの比較から、カタカナ表記語の使用頻度が増える要因として、原文の複合語の分解や、略語の復元、漢語からの書き換えなどがあることがわかった。

## ◆キーワード

カタカナ表記語、やさしい日本語、書き換え、単語親密度、旧日本語能力試験

## ◆ABSTRACT

This paper focuses on words and their characteristics found in *Yasashii Nihongo* (easy Japanese) that are rewritten from general Japanese to *katakana*. The *katakana* words were extracted from NHK's 2018 *NEWS WEB EASY*, which amounted to 1,302 different words and 8,628 running words in total. Additionally, there are 4 *katakana* words that were utilized more than 100 times, and 197 *katakana* words that were utilized more than 10 times. Many of the frequently used words were listed in the vocabulary of non-classified JLPT, which were also categorized as high familiarity regarding word familiarity; these are not only limited to loan words, but also include *wago*, such as animal and plant names. Moreover, factors increasing the usage frequency of *katakana* words were discovered when comparing *NEWS WEB* words with words prior to being re-written. These factors include, but are not limited to, the decomposition of compound words, restoration of abbreviations, and rewriting from *kango*.

## ◆KEY WORDS

*katakana* words, *Yasashii Nihongo* (easy Japanese), rewriting, word familiarity, JLPT

## Exploration of *Katakana* Words Utilized in *Yasashii Nihongo*

MEGUMI KONDO

## 1 はじめに

外来語の氾濫は、その基本語化を背景に論じられるところである（石井2013、金2016等）。しかし、日本語教育においては学習者が必要だと考えるにもかかわらず、外来語教育がなおざりにされてきた背景がある（飯田2016a）。

やさしい日本語は、発信者が受け手にとってわかりやすいと考える語や表現で書かれている。そこに現れる外来語はほかの語や表現に書き換えてやさしくならない、情報のやりとりに必要な語である。そうした視点から、本稿ではやさしい日本語を素材に、そこで使用されるカタカナ表記の語に焦点を当て、その性質を知る試みをする。外来語でなくカタカナ表記語を対象とするのは、外来語の難しさはカタカナ表記の語から外来語を見分ける点にもあると考えるためである。

## 2 やさしい日本語によるニュース

やさしい日本語は1995年の阪神・淡路大震災を契機に生まれたとされ（佐藤1999）、非常時・平時において様々な広がりを見せてきた。現在、やさしい日本語のニュースはウェブサイト上だけでもNHK「NEWS WEB EASY」（以下、「NWE」）<sup>[註1]</sup>、NHK WORLD-JAPAN「やさしい日本語で“今週の日本”」<sup>[註2]</sup>、西日本新聞「コーナー「やさしい日本語」」<sup>[註3]</sup>などによる配信がある。これらは日本語非母語話者や日本人の児童向けに書かれたニュースである。

NWEに関しては製作者らによる報告があり（田中ほか2013等）、日本在住の外国人にニュースをわかりやすく伝える意義や、NHK NEWS WEB（以下、「NW」）<sup>[註4]</sup>からNWEへの書き換え基準などが詳述されている。具体的には、旧日本語能力試験（以下、「日能試」）3～4級の語彙・文法を原則とし、文長に注意することなどが書かれている。そのほかにも、日本人の子ども向けに新聞各社が古くから子ども新聞を刊行している。子ども新聞は子どもという特定の対象者に向けて調整された日本語記事であり、やさしい日本語の名称が生まれる以前から存在していた、平時のやさしい日本語だとも言える。

## 3 カタカナで表記される語と日本語教育の現場

カタカナで表記される語として、第一に外来語が挙げられる。しかし、タバコのようにひらがなや漢字表記が許容される外来語もある。加えて、カタカナで表記されるのは外来語ばかりではない。中山（1998）によれば、一般紙を対象にカタカナで表記される語を収集したところ、非外来語が1割前後あり、その内訳として、①擬音語・擬態語、②感動詞・終助詞・語気語調、③振りがな、④方言・文、⑤外国人の発話文中語・外国製単語、⑥混種語、⑦動植物名・性別、⑧専門用語・隠語・俗語、⑨電報文、⑩単位・数を数える語、⑪人名・国名、地名、⑫機関・施設名、⑬その他、を挙げている。また、奥垣内（2010）の調査にあるように、「受ける」「携帯」を「ウケる」「ケータイ」と表記するなど、通常漢字で表記される語がカタカナで表記されることで、意味の違いが生じる場合もある。

学習者がカタカナ外来語を学習する際の困難点として、望月（2012）では、①発音のズレ、②表記のズレ、③意味のズレ、④和製英語、⑤縮約語・短縮語、⑥混種語、⑦動詞化・ナ形容詞化、⑧非外来語のカタカナ表記、⑨和語・漢語・外来語の類語、の9点を挙げている。⑨は基本語化した抽象的な外来語の用いられ方を指し、金（2006, 2013）の「トラブル」「チェック」等で分析がなされてきたが、外来語の基本語化は動的な現象であり、日本語教育の現場に活かすまでには至っていない。そして、日本語教育における外来語教育の遅れは基本語化した外来語に限ったことではない。飯田（2016a）は、学習者がカタカナ外来語の習得は困難だが必要だと考えていながら、日能試さえもカタカナ外来語の比率は一般に使用されている日本語の半分程度にとどまっており、カタカナ外来語の教育がなおざりにされてきた問題点を指摘している。

語種別の基本語彙について、石井（2013）は20世紀後半から21世紀初頭にかけて外来語が基本語彙に進出してきたことを指摘し、基本語彙から外れた語、新たに加わった語を挙げた上で、基本語彙から外れた外来語に比べ加わった語の数が多ことを示している。金（2016）は、20世紀後半の書きことばにおける「抽象的な事柄を表す外来語の基本語化」の現象とその要因について述べる

とともに、なじみのない新語の激増が外来語の氾濫を感じさせる点に言及し、飯田 (2016b) は、昨今使用されているカタカナ外来語には別語に言い換えできないものが目立ち、グローバル化した社会で外国から日本語にはない概念が数多く輸入されている点を指摘している。

こうした20世紀後半からの外来語増加に日本語教育の外来語の選定や教育が追いついていない現状を踏まえ、本稿ではやさしい日本語によるニュースを素材に、そこで使用されるカタカナ表記の語に焦点を当て、その性質を知る試みをしたい。調査対象を外来語やカタカナ外来語とせず、カタカナ表記語とするのは、外来語か否かを見分けられるかどうかは学習者によって異なり、また、カタカナ外来語の困難点 (望月2012) の内にも非外来語のカタカナ表記語が挙げられているためである。やさしく書き換えられた日本語の中で使用されるカタカナ表記語は書き手が情報の受け手にとってほかの語や表現よりもわかりやすいと考えて選んだ語であり、平時のやさしい日本語ニュースは学習者にとって社会の生きた日本語、現実の日本社会との接点となり得る素材である。

## 4 対象資料

対象資料は2018年1年間のNWEで、総文字数は376,281字である。また、比較資料として、同年のNW (総文字数1,061,048字) を使用する。NWEを素材に選ぶのは、①国内外からウェブサイトへのアクセスが容易で、②平日複数本安定的に配信されており、③書き換え前のNWへのリンクがあり、④母語話者による読解実験で日本語の自然さが保証されている (田中・美野2011) ためである。

## 5 語彙分類手順

NWEはウェブ上から取得し、Microsoft Office Word 2016の検索機能、ワイルドカードを用いてカタカナの文字をそのままに、カタカナ以外の文字列を「[!ァ-ヴ]」で選択し、長さを問わず句点1字に置き換えた。本稿では、連続するカタカナ表記は「ノンステップバス」「スマートフォン」のような長いものも含め、便宜上1語と考える。中黒でつながれた氏名等も同様である。そのため、カタカナ

表記連続の途中で語が区切られないよう、形態素解析ウェブアプリ UniDic-MeCab Ver0.02<sup>[註5]</sup> の複合名詞判定で名詞連続が1語と認識される状態で形態素解析を行った。これにより「ノンステップバス」「クレジットカード」のような名詞連続は複合名詞と判定される。しかし、この段階では名詞「スマートフォン」は形状詞「スマート-smart」と名詞「フォン-fond」の2つに分けられるというように、名詞連続と見なされないカタカナ表記連続の間で形態素の区切りが生じる。同様の例として「クールビズ」「クマノザクラ」などがある。そこで、カタカナ表記連続がすべて1語になるよう、手作業で解析結果の修正をし、Microsoft Office Excel 2016のpivot tableを用いて語の集計をした。語の異なり語数は1,302語、延べ語数は8,628語である。

異なり語数1,302語に対し、リーディング・チュウ太<sup>[註6]</sup> (以下、「チュウ太」) のレベル判定「語彙」と、甲南大学のチュウ太 $\alpha$ 版「fami: 単語親密度に基づく分類」<sup>[註7]</sup> (以下、「fami」) で語の難度を測定した。単語親密度は単語のなじみ度を評定した値で、単語親密度が高いほど母語話者にとって基本的な語だと見なすことができる (川村2009: 53) という指標である。チュウ太の指標は日能試だが、その分類は、級外、N1、N2～N3、N4、N5、その他で示される。チュウ太における「その他」は数字や記号であり、N1～N5に判定されない語は級外である。famiはLevel 1～4の4段階およびその他で判定され、Level 1～4に該当しない語が「その他」に相当する。famiではLevel 1は単語親密度が低く、Level 4は単語親密度が高い語である。

## 6 単語親密度と日能試から見たNWEのカタカナ表記語

### 6.1 カタカナ表記語の概要

抽出されたカタカナ表記語、異なり語数1,302語、延べ語数8,628語のうち、頻度100を超える語は「アメリカ」402、「オリンピック」167、「インターネット」127、「メダル」125の4語である。頻度10を超えるものは200あったが、カタカナ以外の表記に挟まれる中黒「・」、長音符「ー」、力士「栃ノ心」にあるような「ノ」が含まれていたため、197語である。チュウ太、famiでの分布

を表1に示す。なお、表の枠内左から順に頻度の高い語である。

NWEの高頻度語は日能試(チュウ太)基準では級外語彙が、単語親密度(fami)基準では親密度の高いLevel4の語とその他の固有名詞が多い。日能試基準の級外語彙が多い要因は、第一に、日能試の語彙表に外来語が少ない点が挙げられる。飯田(2016a)によれば日能試の語彙表に含まれるカタカナ外来語は1級語彙10,000語のうち519語、約5%であり、雑誌や新聞等のカタカナ外来語が異なり語数で10%前後使用されているのとは比べ、非常に少ない。

本稿ではカタカナ表記の語であれば語種を問わず対象としている。日能試の出題基準(国際交流基金2002)の語彙選定の総則⑥、⑦に、固有名詞、食べ物・飲み物の名称、スポーツ名、動植物名などは語彙表には挙げないが、これらの語彙が試験に出題されないことを意味するものではないとの記述がある。表1の級外語彙として挙げた「フランス」「パンダ」「キャベツ」等、多くの語がこの総則⑥、⑦に該当するが、語彙表にはないという点で語彙の把握が学習者にとって困難なため、ここではチュウ太の判定に従い、級外語彙として扱った。

## 6.2 単語親密度Level4

日能試で上のレベルに上がる際に新たに加わるカタカナ外来語の数は、語彙表全体から見て、4級(チュウ太N5)10.2%、3級(N4)3.9%、2級(N2~N3)46.8%、1級(N1)39.1%である(飯田2016a)。日能試の3級は20語のため、日能試の語彙表にあるカタカナ外来語がほぼ漏れなく用いられていた一方、4級の53語にはNWEで高頻度では使用されない語が数多く含まれている。NWEの高頻度語にならなかった3級~4級の語は「メートル」「キロ」などの単位の語、「スプーン」「テーブル」「カレンダー」などの身の回りの語のほか、「レコード」「テープレコーダー」「オーバー」のように最近ではその物自体があまり使われなくなったり、別の呼び方がされるようになったものがある。また、石井(2013)で基本語彙から外れた語として挙げられた「スカート」なども含まれる。3級の語は語彙表にある数が少なく、多くは現在でもやさしい日本語への書き換えで使われる、あるいは書き換え後も残されている語だが、4級はそのまま学習者が初級前半に必要な外来語だと認識できるには程遠い語であることが本調査からもわかる。

表1 NWEカタカナ表記高頻度語の日能試、単語親密度でみる難易度

	Level4	Level3	Level2	Level1	その他
N5	カメラ、ホテル、テレビ、スポーツ、バス、レストラン、ニュース、テスト、タクシー、デパート、ドア、パン、エレベーター、クラス、コーヒー、シャツ(16)				トイレ(1)
N4	コンピューター、サッカー、ビル、スーパー、ガス、プレゼント、チョコレート、オートバイ、レジ、パソコン、コンサート、テニス(12)	チェック、タイプ(2)			アメリカ、アジア、アフリカ(3)
N3 N2	オリンピック、グループ、チーム、ビデオ、スキー、ミルク、ビール、トラック、サバイブ、ヘリコプター、ゲーム、ワイン、プロ、ウイスキー、スタート、スピード、ボール、エンジン、スピーカー、サイン、イメージ、カード、ダイヤモンド、バスポート(24)	プラスチック、トップ、センター、ロケット、コース、コーチ、セット(7)	ウイルス、メール、コード(3)		ヨーロッパ、デモ(2)
N1	ルール、オープン、トラブル、デザイン、ジャンプ、メッセージ、アンケート、サンタクロース、プザー、ポイント(10)	システム、データ、ファン、ストロー、ジョー(5)			
級外	フランス、イベント、チケット、ボランティア、キャンセル、スペイン、パンダ、オペラ、カプセル、キャベツ、キリスト、タコ(12)	メダル、ロボット、インフルエンザ、アニメ、キャラクター、ピッチャー、タックル、ツアー、マスコット、ランキング、オウム、トーナメント、アザラシ、ターミナル、ドル、リレー(16)	ピザ、ワクチン、ノーベル、オークション、リーグ、センサー、テロ、バッテリー、サマータイム、ジェット、ダイバー、オゾン、タンカー、タンク、トキ、リフト(16)		インターネット、スマートフォン、パラリンピック、ウェブサイト、ワールドカップ、ドローン、フィギュアスケート、コンビニ、シャンシャン、スピードスケート、ビョンチャンオリンピック、リュウグウ、アプリ、エアコン、ユネスコ、サケ、ツイッター、アマゾン、ハロウィーン、ギネス、ビョンチャンパラリンピック、スターバックス、アライグマ、カニ、サバ、セクハラ、フェイスブック、ホンダ、カブトムシ、ユニセフ、エンジェルズ、カビバラ、スルメイカ*1*2(68)

\*1 地名(含国名)30語:ロシア、イギリス、インドネシア、ドイツ、タイ、ベトナム、インド、エジプト、イタリア、ハワイ、イラン、シリア、シンガポール、トルコ、サウジアラビア、カナダ、オーストラリア、ニューヨーク、パリ、フロリダ、コロンビア、ジョージア、ペルー、エルサレム、スウェーデン、ブラジル、ミャンマー、カンボジア、ジャカルタ、ワシントン

\*2 人名5語:トランプ、プーチン、キム、キム・ジョンウン、ザギトワ

NWEのN1～N3相当の高頻度語は日能試の語彙表に含まれる語の増加率に比べてさほど増えていないが、これは、田中ほか(2013)にあるように、NWEには日能試3～4級(N4～N5)の語彙で書くという原則があるためだと考えられる。N1相当語には金(2006)で扱われた「トラブル」も高頻度語として挙がっており、【ヒトとヒトとのトラブル】の「デキゴトのトラブル」【関係のトラブル】、【モノのトラブル】の「機械のトラブル」、【モノゴトのトラブル】の「運営・運用のトラブル」、【事故・事件のトラブル】の意味で、「ペットの鳴く声やにおい、食べ物などの問題でトラブルになった」「成人式に着物が届かないトラブル」「ナトリウムが漏れる事故やトラブルが続いた」のように多岐にわたって使用されていた。なお、【モノのトラブル】の「身体のトラブル」での使用例はNWE、NWともになかった。

### 6.3 単語親密度 Level 3～Level 2

単語親密度(fami)のLevel 3、Level 2の語彙で日能試の語彙表にあるものは少ない。Level 4の語彙には「シャツ」「スプーン」など日常生活や身の回りの物が多かったのに対し、Level 3、Level 2の語彙は「ロボット」「ロケット」「マスコット」などの科学や文化に関する語、「インフルエンザ」「ワクチン」など医療に関する語、「トーナメント」「コーチ」などスポーツに関する語など、使用される分野を特定しやすい語が目立つ。

金(2016)に示される20世紀後半の新聞記事で大幅に増加した外来語のうち、Level 3、Level 2の語では7語「タイプ」「センター」「システム」「データ」「ツアー」「ビザ」「オゾン」が共通している。(1)(2)に「システム」、(3)(4)に「タイプ」、(5)(6)にタイプの類語である「種類」の使用例を挙げる<sup>[注8]</sup>。

- (1) AIを使って、家の電気代を安くする新しい「システム」を発売しました。
- (2) 市役所などでは翻訳の「システム」を使う予定です。
- (3) ニッケルが少ない「タイプ」の隕石で、この「タイプ」の隕石が日本で(後略)
- (4) 電気自動車を充電する機械には5つの「タイプ」があります。
- (5) H1N1型とB型の2つの「種類」のウイルスが(後略)
- (6) 4「種類」の日本酒を飲んで味を比べるセミナーもありました。

「システム」は人の生活を支える、手で触れることのできない、コンピューターに関連した仕組みや枠組みを指すのに使われているが、原語のsystemに見られる体制や方法などの意味での使用は見られない。また、「タイプ」は電車や車の車体、機械、トイレ、隕石など種々の物の種類や型を指し示すのに使われているが、原語のtypeに見られる活字や典型といった意味での使用はない。こうした点は、望月(2012)が指摘する外来語の意味のズレによる困難さだと言えよう。また、「タイプ」の類語「種類」の使用も見られ、この使い分けは望月(2012)の指摘する和語・漢語・外来語の類語との困難さにつながり、やさしい日本語の中にも外来語の難しさが入り込んできていることがわかる。

famiのLevel 3～2の中では「チェック」の使用が多いが、模様の意味ではなく、すべて「チェック(する)」としての使用である。金(2013)では「チェック(する)」の意味と用例数が、1960年代より①主に組織やその成員が、ヒト・モノなどを、悪いことがないか調べ、取り締まる、②主に組織やその成員が、機械類や身体、文書などを異常や問題がないか、点検する、③主に個人が、情報などの内容・中身などを確認する、④(スポーツ)[相手の攻撃などを]牽制したり食いとめたりすること、の順に多いことを示している。NWEで使用が確認できたのは①②③の「チェック(する)」で、この内②の使用が70%以上を占める。(7)(8)(9)に「チェック(する)」の①②③の例を順に示す<sup>[注9]</sup>。

- (7) 病院のウェブサイトなどを調べると、法律に違反している広告が160件見つかりました。広告には、本当の効果以上のことやうそが書いてありました。(中略)厚生労働省は「(中略)厳しく「チェックし」ていきたい」と話しています。
- (8) 選手などのIDカードのデータと同じかどうか機械が「チェックし」ます。
- (9) どちらのボランティアも書類の「チェック」や面接をしてから決まります。

### 6.4 単語親密度「その他」と日能試「級外語彙」

単語親密度(fami)のその他の分類は日能試の級外語彙が多く、74語中、人名・地名・組織名等の固有名詞が6割強を占める。また、日能試(チュウ太)のN1～N5のカタカナ表記の高頻度語はすべて外来語だが、級外語彙には非外来語

も多い。3節に示した中山(1998)の13分類のうち、NWEの高頻度語に現れた外国語由来でない語は、⑦動植物名「タコ」「カピバラ」等、⑩機関「ホンダ」等、⑬その他「リュウグウ」(小惑星)等だが、多くは動物名である。そして、望月(2012)が挙げた困難点では、縮約語・短縮語、「アプリ」「セクハラ」等が散見された。外来語では、固有名詞、スポーツ関連語等を除けば、「デモ」「スマートフォン」「ウェブサイト」「ドローン」等、時代や時事を反映した語が目立つ。

## 7 普通のニュースNWとの比較

### 7.1 NWからの書き換えで増えたカタカナ表記語

NWEは普通のニュースであるNWから書き換えられたニュースのため、元のニュースでもNWEに見られるカタカナ表記語が使われていたのかを確認する。前節で示したNWEのカタカナ表記の高頻度197語のうち、NWの頻度と比較し、使用率が100%以上の語は46語(内、100%の語は6語)、ほぼ4分の1に相当する語である。NWの全体で1,061,048字あったニュースはNWEへの書き換えにより376,281字とおよそ3分の1まで短くなり、使用語彙も減っているが、使用頻度が増えた語も少なくない。表2にどのような語がNWEへの書き換えにより使用頻度が増えたのかを示す。表の枠内左から語の増加率が高い語であり、下5段に示す丸括弧の数字は各分類に該当する語の数である。

表2 NWからの書き換えで増えたNWEカタカナ表記の高頻度語

450%～	ウェブサイト	<482% : NW 11回→NWE 53回>
400%～	ビデオ	<409% : NW 11回→NWE 45回>
350%～	コンピューター	<379% : NW 14回→NWE 53回>
300%～	レストラン ピザ	<346% : NW 11回→NWE 38回> <308% : NW 12回→NWE 37回>
250%～	ウイスキー	<257% : NW 7回→NWE 18回>
200%～	コード、チェック、テスト	(3)
160%～	タイプ、プレゼント、タックル、パラリンピック、オゾン、オートバイ	(6)
140%～	パンダ、オークション、ミルク、トキ	(4)
120%～	ドア、サイン、ジェット、ジャンジャン、チョコレート、アザラシ、カブトムシ、サバ	(8)
101%～	インターネット、キリスト、コンビニ、シャツ、エレベーター、ミャンマー、ワイン、イベント、タコ、スーパー、サゲ、ハワイ、リュウグウ	(13)

表2に示したように、「ウェブサイト」「ビデオ」「コンピューター」など、通信機器、電子機器に関わる語で特に使用回数が増えているほか、「プレゼント」「チョコレート」「コンピューター」のような表1に示した日能試基準でも単語親密度基準でも難度が低いとされる語もある。また、外来語ではない「トキ」「カブトムシ」などの動物名も少なくない。NWでの使用回数が多かった語で、NWEの使用回数がNWよりさらに多かった語は、インターネット(119% : NW 106回→NWE 127回)、イベント(109% : NW 66回→NWE 72回)、パラリンピック(167% : NW 40回→NWE 67回)である。以下、どのように語の使用回数が増えたのか、「ウェブサイト」「ビデオ」を例に見る。

「ウェブサイト」はNWでの使用は11回だったが、NWEへの書き換えで53回に大きく使用回数が増えた語である。最も多いのは(10a,b)<sup>[註10]</sup>に示すような「サイト」あるいは「通販サイト」「公式サイト」「情報サイト」などからの書き換えで17例、次に多いのは(11a,b)に示すような文全体で意識されていて対応する語が特定できないもので10例、「ホームページ」8例、「ウェブサイト」のままが6例、「ネット通販」4例、「インターネット」3例、「SNS」1例で、(12)に示すようなNWEに限って発せられた追加情報のためにも4例使用されていた。なお、NWで使用された「ウェブサイト」11例のうち5例はNWEへの書き換え段階で該当箇所の記述内容自体が削除されていた。

- (10a) NW : 3人の切手は(中略)東京中央郵便局など全国10か所の郵便局のほか、日本郵便の「通販サイト」などでも購入できるということです。
- (10b) NWE : 3人の切手は、東京中央郵便局など10の郵便局や、日本郵便の「ウェブサイト」などで買うことができます。
- (11a) NW : 厚生労働省がことし3月までの7か月間、ネットパトロールや一般の人からの通報を基に調査した結果、うそや誇大表現などの違反が160件見つかりました。
- (11b) NWE : 厚生労働省が今年の3月までの7か月間、病院の「ウェブサイト」などを調べると、法律に違反している広告が160件見つかりました。
- (12) NWE : 下の「ウェブサイト」には、熱中症にならないために気をつけることが、やさしい日本語で書いてあります。

NWには「サイト」を含む「通販サイト」「サイト上」などの複合語が多い。カタカナ表記を含む複合語のやさしい日本語への書き換えでは、成分を分解し、さらにそのカタカナ表記が原語の省略からなるものであれば、省略した「サイト」ではなく、元に戻した「ウェブサイト」として使用されていた。しかし、NWEで完全に「サイト」が使用されないわけではなく、(13)<sup>[註11]</sup>を含め、2本のニュースで使用された例があった。

(13) NWE: 政府は、多くの人が見ている3つの海賊版サイトを見ることができないようにしてほしいと、インターネットに接続する仕事をしている会社に言いました。3つのサイトは「漫画村」と「Anitube」、Miomioです。NTTのグループの会社は、法律ができるまでの間、3つのサイトを見ることができないようにすることに決めました。

同様に外来語の短縮が元に戻された例としては、NWで多用された「五輪・パラ」があり、NWEへの書き換えで「オリンピック・パラリンピック」のように省略されない形へ変更されている。NWで22回使用された「スマホ」はNWEでは2本のニュースで計7回使用されている。このうちニュースタイトルでは「スマホ」のまま使用されているが、本文では初出の際、「スマホ(スマートフォン)」のように省略のない形が併記されていた。

続いて、「ビデオ」を例に挙げる。「ビデオ」はNWでの使用が11回で、NWEへの書き換えで45回に使用回数が大きく増えた語だが、使用が増えた背景は「ウェブサイト」とは異なり、複数の漢語からの書き換え語としての使用である。例えば、(14a,b)<sup>[註12]</sup>に示すような「映像」からの書き換えのほか、「撮影」「動画」「録画」など、動画を撮る行為、映像を観る行為、映像そのものなど、動詞を伴い、動きのある映像にまつわる複数の意味で使用されていた。

(14a) NW: (前略) 当時の状況を撮影した映像には、スキー客が高速で逆回転するリフトから振り落とされるなどしてパニックに (後略)。

(14b) NWE: インターネットには事故のときのビデオが出ていて、リフトに乗っていた人が落ちたり、リフトから自分で飛び降りたりしています。

「ビデオ」は名詞だが、こうした漢語からの書き換えで使用回数が増加するカタカナ表記語は「チェック」「テスト」のように「する」を伴ってサ変動詞になり得る語で頻繁に生じている。(14a,b)のビデオの例では「映像」とさほど意味の深さに違いはないが、(15a,b)<sup>[註13]</sup>では、「点検作業」を「チェック」、「実証実験」を「テスト」など、概要だけを捉えるような簡略化された語で書き換えている点もやさしい日本語の特徴であろう。

(15a) NW: 地下を通る配管などのインフラの点検作業を、狭い空間を自動で飛べる小型のドローンを使って効率化する実証実験が東京丸の内で行われました。

(15b) NWE: 三菱地所などは6日、小さいドローンを使って、東京のビルの地下にある管などをチェックするテストを行いました。

## 7.2 NWからの書き換えで現れたカタカナ表記語

NWEへの書き換えで現れたカタカナ表記語は40語で、その内NWEの頻度1の語が25語、頻度2の語が9語、頻度3の語が「ガンマ」「シンセン」「ゼリー」「テルアピブ」の4語、頻度4の語が「パンフレット」「マララ」の2語である。NWEに現れた「パンフレット」はNWの「リーフレット」からの書き換えであり、NWEの人名「マララ」はNWでは「マララ・ユスフザイ」のフルネームでの使用に限られた。

(16a,b)に頻度3「ゼリー」のNWEでの使用例とNWの書き換え前の文を示す<sup>[註14]</sup>。「ゼリー」は「ジェル状」「充填剤」などの難しい語をわかりやすくするため、例えとして用いられていた。このほかにも、NWEの書き換えで現れた語の中には、NWの「メタボ」が「メタボリックシンドローム」に書き換えられたように語の短縮を元に戻すことで現れた語があった。

(16a) NW: 胸を大きくする美容医療の「豊胸術」で、ジェル状の充填(じゅうてん)剤を注入した患者に (後略)

(16b) NWE: 胸を大きくするため、柔らかいゼリーのような物を胸に注射して入れる手術が多くなっています。

## 8 おわりに

本稿では、NWEを素材に、一般の日本語から書き換えられたやさしい日本語で使用される語のうち、カタカナで表記される語の特徴を見た。高頻度語に注目すると、日能試基準では級外語彙が、単語親密度基準では難度の低い語が多い。また、日能試の級外語で単語親密度のその他に該当する語は一見数が多いが、固有名詞や動物名等を除けば少数である。ここで示されるカタカナ表記語には外国語由来の語に限らず、動植物名などのカタカナ表記の和語も含まれている。また、書き換え前のNWとの比較から、カタカナ表記語の使用回数が増える原因として、原文の複合語の分解や、略語の復元、漢語からの書き換えなどが特徴として挙げられることがわかった。 <名古屋大学大学院生>

### 謝辞

査読の先生方に貴重なコメントをいただきましたこと、御礼申し上げます。

### 注

- [注1] …… NHK NEWS WEB EASY <<http://www3.nhk.or.jp/news/easy/>>  
[注2] …… NHK WORLD-JAPAN やさしい日本語で“今週の日本” <<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/learnjapanese/audionews/>>  
[注3] …… 西日本新聞 コーナー「やさしい日本語」 <[https://www.nishinippon.co.jp/theme/easy\\_japanese/](https://www.nishinippon.co.jp/theme/easy_japanese/)>  
[注4] …… NHK NEWS WEB <<http://www3.nhk.or.jp/news/>>  
[注5] …… 形態素解析ウェブアプリ UniDic-MeCab Ver0.02 <<http://www4414uj.sakura.ne.jp/Yasanichi1/unicheck/>>  
[注6] …… リーディング・チュウ太 <<http://language.tiu.ac.jp/>>  
[注7] …… 甲南大学 チュウ太α版 チュウ太のレベルチェッカー「fami: 単語親密度に基づく分類」 <<http://basil.is.konan-u.ac.jp/chuta/level/>>  
[注8] …… (1) NWE 1月18日「パナソニック AIを使って家の電気代を安くする」、(2) NWE 12月12日「日本で働くための新しいビザ 8つの国で試験を行う」、(3) NWE 3月2日「畑で見つけた黒く光る石は46億年前にできた隕石」、(4) NWE 8月24日「日本と中国 電気自動車を充電する機械を同じタイプにする」

る」、(5) NWE 1月26日「インフルエンザになった人が今まででいちばん多くなる」、(6) NWE 11月9日「香港で日本酒や梅酒を紹介」からの引用。本稿例文における囲み等の強調はすべて筆者による。

- [注9] …… (7) NWE 6月4日「病院のインターネットの広告 160件が法律に違反していた」、(8) NWE 8月9日「東京オリンピック 入り口で顔をチェックする機械を発表」、(9) NWE 9月26日「東京オリンピック ボランティアの受け付けが始まる」からの引用。  
[注10] …… (10a) NW 2月14日「ピョンチャン五輪メダリストの切手シート 15日から販売」、(10b) NWE 2月16日「オリンピックでメダルを取った選手の切手を売る」、(11a) NW 5月31日「医療機関のネット広告 うそや誇大表現の違反160件」、(11b) NWE 6月4日「病院のインターネットの広告 160件が法律に違反していた」、(12) NWE 5月16日「子どもの熱中症 運動会の練習中は特に気をつけて」からの引用。  
[注11] …… (13) NWE 4月24日「NTTが漫画などの海賊版サイトを見ることができなくする」からの引用。  
[注12] …… (14a) NW 3月17日「スキー場リフトが高速で逆回転 8人がジョージア」、(14b) NWE 3月20日「ジョージアのスキー場でリフトが突然反対に動く 8人がけが」からの引用。  
[注13] …… (15a) NW 2月6日「小型ドローンで地下のインフラ点検の実験」、(15b) NWE 2月8日「小さいドローンでビルの地下にある管をチェックする」からの引用。  
[注14] …… (16a) NW 11月27日「「豊胸術」ジェル状充填剤でしこりや感染症の被害相次ぐ」、(16b) NWE 11月28日「胸を大きくする手術をして体に問題が出た」からの引用。

### 参考文献

- 飯田明美 (2016a) 「日本語教育内におけるカタカナ外来語教育の現状と問題点」『武蔵野短期大学研究紀要』30, pp.161-169. 武蔵野短期大学  
飯田明美 (2016b) 「日本語彙内におけるカタカナ外来語について—日本語教育におけるカタカナ外来語教育のために」『武蔵野短期大学研究紀要』30, pp.83-92. 武蔵野短期大学  
石井正彦 (2013) 「日本語の攻防 和語・漢語・外来語—基本語彙に見る攻防」『日本語学』32(11), pp.80-92. 明治書院  
奥垣内健 (2010) 「カタカナ表記語の意味についての一考察—身体性とイメージの観点から」『言語科学論集』16, pp.79-92. 京都大学大学院  
川村よし子 (2009) 『チュウ太の虎の巻 日本語教育のためのインターネット活用術』くろしお出版  
金愛蘭 (2006) 「外来語「トラブル」の基本語化—20世紀後半の新聞記事における」『日本語の研究』2(2), pp.18-33. 日本語学会  
金愛蘭 (2013) 「外来語動名詞「チェック」の基本語化—通時的新聞コーパス調査と意識

- 調査の結果から」相澤正夫（編）『現代日本語の動態研究』pp.29-45. おうふう
- 金愛蘭（2016）「語彙の周辺部から中心部へ「進出」する外来語—「抽象的な外来語の基本語化」について」『日本語学』35(7),pp.12-22. 明治書院
- 国際交流基金編著（2002）『日本語能力試験 出題基準』（改訂版）凡人社
- 佐藤和之（1999）「災害時に外国人にも伝えるべき情報」『月刊言語』28(8),pp.32-41. 大修館書店
- 田中英輝・美野秀弥（2011）「日本語母語話者による「やさしい日本語ニュース」の読解実験」『言語処理学会第17回年次大会予稿集』pp.758-762. 言語処理学会
- 田中英輝・美野秀弥・越智慎司・柴田元也（2013）「3章「やさしい日本語」による情報提供」庵功雄・イ ヨンスク・森篤嗣（編）『「やさしい日本語」は何を目指すか—多文化共生社会を実現するために』pp.31-57. ココ出版
- 中山恵理子（1998）「非外来語の片仮名表記」『日本語教育』96,pp.61-72. 日本語教育学会
- 望月通子（2012）「基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発 その振り返りと新たな開発に向けて」『関西大学外国語学部紀要』6,pp.1-16. 関西大学外国語学部